

タマネギ「晩秋まき栽培」による6～7月連続収穫

野菜部 露地野菜チーム TEL:022-383-8124

研究の目的

当所でこれまで提案してきた春まき栽培は、慣行の秋まき栽培と組み合わせることで、ほ場と機械の効率的利用、労力分散などのメリットがありますが、さらに6月から7月まで同一品種での連続収穫を可能にするため、新作型の「晩秋まき栽培」を検討しました。

研究成果

晩秋まき栽培の標準的な作業時期は、11月下旬播種、3月上中旬定植、6月下旬収穫です。慣行秋まき栽培、春まき栽培とは異なる作業時期であり、春まき栽培よりも7～10日倒伏が早まり、この3作型を併用すると、同一品種で6月上旬～7月下旬まで収穫時期が連続することが明らかになりました(図1、表1)。

晩秋まき栽培には、秋まき用品種の中生から中晩生のうち、病害に強く貯蔵性の良い品種が適します。特に、「もみじ3号」、「ネオアース」、「ターザン」は収穫時期、球重、収穫後腐敗の少なさを考慮すると最適な品種です(表1)。

図1 宮城県におけるタマネギ3作型

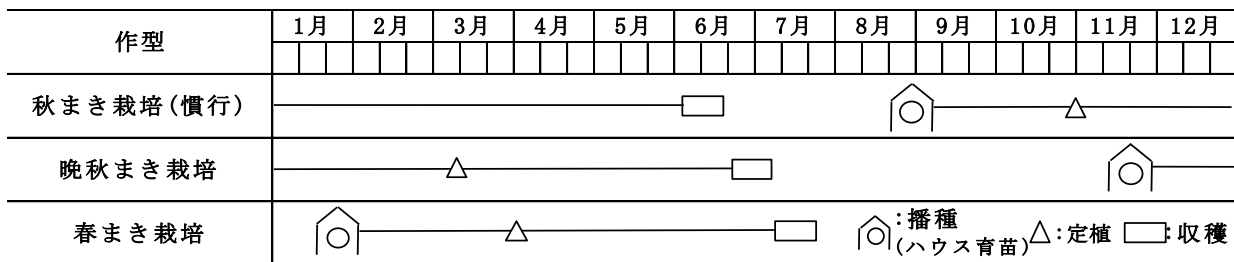


表1 晩秋まき栽培と春まき栽培の収穫日、収量の比較

品種	作型	定植日	倒伏日	収穫日	球重(g)	腐敗率(%)	分球率(%)	商品収量(t/10a)
もみじ3号	晩秋	3/8	6/21	6/25	228.0	2.2	3.2	4.8
	春	3/29	7/2	7/10	251.3	2.2	5.1	5.2
ターザン	晩秋	3/8	6/11	6/22	237.1	2.2	2.7	5.1
	春	3/29	6/18	7/2	165.7	4.2	2.7	3.5

利活用の留意点等

晩秋まき栽培の育苗は慣行のセルトレイ(288穴、448穴)を用い、ハウス内で播種から定植まで無加温で育苗できます。

晩秋まき栽培に使用する機械(播種機、定植機、収穫機、回収機、調製・選別機、乾燥機など)は、全て他2作型と共通に利用できます。

*本研究は、革新的技術開発・緊急展開事業(うち経営体強化プロジェクト)「寒冷地の水田作経営収益向上のための春まきタマネギ等省力・多収・安定化技術の開発とその実証」により実施しました。

より詳しい内容は「普及に移す技術」第94号(平成31年4月発行)

「タマネギ「晩秋まき栽培」による6～7月連続収穫」をご覧ください。

http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/hukyuu-index.html

